

F2-20

外出自粛要請時における幕張ベイタウンのパティオ（中庭）の利用実態と住民評価に関する研究 A Study on the Actual Condition of the Patio (Courtyard) and Evaluation of Residents in Makuhari Bay Town when Requesting Self-Exclusion

○増子祐也，山崎晋
Yuya Mashiko，Shin Yamazaki

Abstract: In this study, We are conducting "Survey/Research on Outdoor Space Use and Resident Evaluation of Condominiums in Corona Eruption". This year, we decided to conduct a questionnaire survey on people who live in Makuhari Baytown regarding the actual situation of using the patio when requesting to refrain from going out with the new coronavirus.

The purpose of this study is to understand the actual conditions of use and environmental evaluation of residents in the patio (courtyard) of Makuhari Bay Town, and to clarify the actual conditions of space use and changes in consciousness of the patio and neighboring parks before and after the emergency declaration. I will.

1. 背景と目的

世界的に大流行を起こした新型コロナウイルスにより2020年4月埼玉県,千葉県,東京都,神奈川県,大阪府,兵庫県及び福岡県の区域を対象に緊急事態宣言が発令された。

また,幕張ベイタウンでは街区ごとに,中央に憩いのスペースとなるパティオ(中庭)を設けたヨーロッパスタイルになっている。本調査では,コロナウイルス流行により外出自粛要請が出され,多くの方がストレスを抱えている中,これまで住民から肯定的に評価されていた中庭の住民の利用実態,環境評価等を把握し,緊急事態宣言前後のパティオや近隣公園の空間利用実態や意識変化などを明らかにすることを目的としている。

2. 調査方法

まず,幕張ベイタウンに居住の方を対象にアンケート調査を実施した。調査対象は既往文献でも対象になった1~6番街(打瀬2丁目)に加え7番街(1丁目)20番街(3丁目)の全1013世帯である。調査内容は1.パティオの利用実態 2.近隣の公園の利用実態 3.パティオの環境評価 4.近隣の公園の環境評価 5.パティオの感覚評価 6.近隣の公園の感覚評価,以上6つの項目である。

Table1. Survey outline

調査期間	2020年8月18日~9月4日				
調査方法	投げ込み配布・郵送回収によるアンケート調査				
調査対象	1~6番街,7番街,20番街				
住戸数	1013	回収数	227	回収率	22%

3. 結果と考察

3-1 回答者の基本属性

回答者の性別はほとんど同率であり,40代以上の方から多く回答を得た。

3-2 コロナ前後のパティオの評価

まず,パティオの評価は「緑が豊かである」「十分な広さが確保されている」「舗装されていて使いやすい」「子供を安心して遊ばせられる」「ベンチ等の休める場所が充実している」「日当たりが良い」「景観が良い」「防犯面で安全である」「新型コロナ感染対策に安心感がある(コロナ禍のみ)」以上8つの項目を設定しコロナ前後の意識を5段階で評価を得た。コロナ前後の変化としてはベンチ等の休める場所の有無や子供の遊び場としての評価は下がったがそれ以外の項目においてはあまり変化は見られなかった(Table2)。

また,パティオを利用することが癒しや生活の豊かさに繋がるというよりも存在自体が住民に癒しを与えているという結果になった。また,住民がパティオに癒しを感じる要因としては「安心感があること」「静かであること」が一番多く挙げられ,次いで「景観が良いこと」「広い空間があること」といった声が多く挙げられた(Figure2)。コロナ禍を通じて住民がパティオに求めるものとしては「豊かな緑が欲しい」といった声が1番多く次いで「日影や木陰」「特に求めていることはない」といった声が挙げられた(Figure3)。

3-3 コロナ前後の公園の評価

公園の評価はほぼ全ての項目において中庭を上回る高い評価となり,「十分な広さ」において一番高い評価を得た(Table2)。唯一防犯面の評価のみパティオを下回

る結果となったが通り抜け出来る1・7・20番街のみ公園の方が防犯面において高い評価を得た。コロナ禍の公園の評価については「緑の評価」や「舗装についての評価」は少し上がったがあまり変化は見られなかった。公園が癒しに繋がる理由としては「広い空間があること」が1番多く全体の3割を占め、ほか「景観が良い」「活気がある」といったパティオとは対照的な意見も挙げられた(Figure2)。現在公園に求めるものとしては「花や植栽」といったパティオと同じようなものや「利用者マナーの向上」といったものが挙げられた(Figure3)。

3-4 パティオと公園の評価に対する考察

コロナ前後ではあまりパティオ及び公園の評価に大きな差異はなかった。それは、毎日のようにパティオを利用していた人が減少したことも考えられる。住民はパティオ利用することよりも存在を感じることや、眺める事での特別感や安心感から癒しをえているため、活気や賑やかさではなく豊かな緑や静けさを求めていることが明らかとなった。公園については散歩や運動の利用目的が多いことや活気を求める意見があること、また、パティオに比べ広い空間があるにも関わらずさらに広い空間を求める声が多いことから利用そのものに価値があるといえる。また、パティオは公園に比べこれ以上特に求めているものはないといった意見が多く現状を維持していくことが求められる。公園ではそのパブリック性から利用者マナーの向上を求めているたり、新型コロナへの感染予防や消毒を求めていることが明らかとなった。

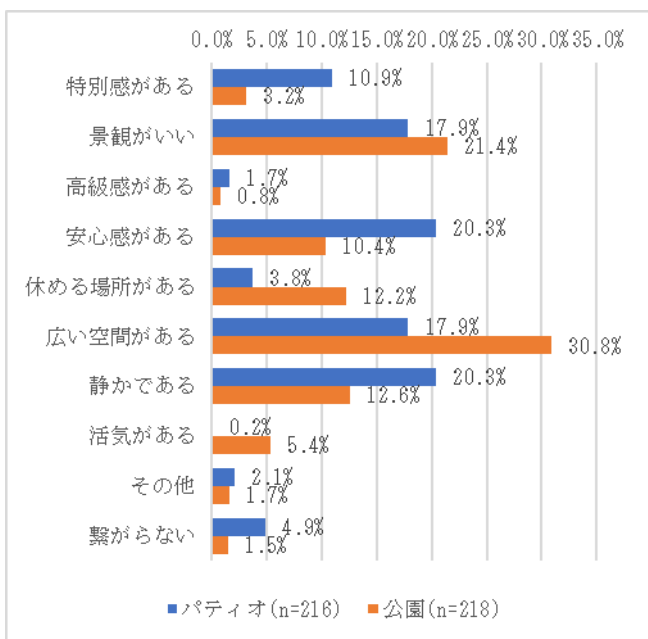


Figure1. Reasons for healing

4. まとめ

評価を見ると公園の方が高いが、「パティオを気に入っている」といった住民の意見はおおく寄せられパティオの必要性を示している。今後もよい景観や存在で安心感を維持し、パティオと公園、共存共栄でよりよくしていく事が大切であると考え。パティオにパブリック性を持たせると、防犯面や騒音の問題が懸念され住民評価が下がることから公園とのすみ分けをしっかりと行うことが大切である。

5. 参考文献

- 1) 幕張 ベイタウンパティオスの中庭計画 と パブリック性に関する研究, 鈴木雅之・服部岑生, 1999

Table2. Evaluation before and after covid-19 □コロナ前 □コロナ禍

環境評価	パティオ	パティオ	公園	公園
緑が豊かである	3.48	3.46	4.09	4.14
十分な広さである	3.37	3.27	4.24	4.2
舗装されていて使いやすい	2.97	2.92	3.75	3.83
子供を安心して遊ばせられる	2.88	2.82	3.97	3.8
ベンチ等の休める場所がある	2.47	2.48	3.62	3.57
日当たりが良い	3.81	3.72	4.34	4.32
景観が良好である	3.17	3.33	4.14	4.16
防犯面で安全である	3.45	3.37	3.36	3.4
新型コロナ感染対策に関して安心感がある			3.19	3.18
感覚評価				
存在が癒しや生活の豊かさに繋がる	3.49	3.29	3.98	3.91
利用することが癒しや生活の豊かさに繋がる	2.91	2.84	3.78	3.69

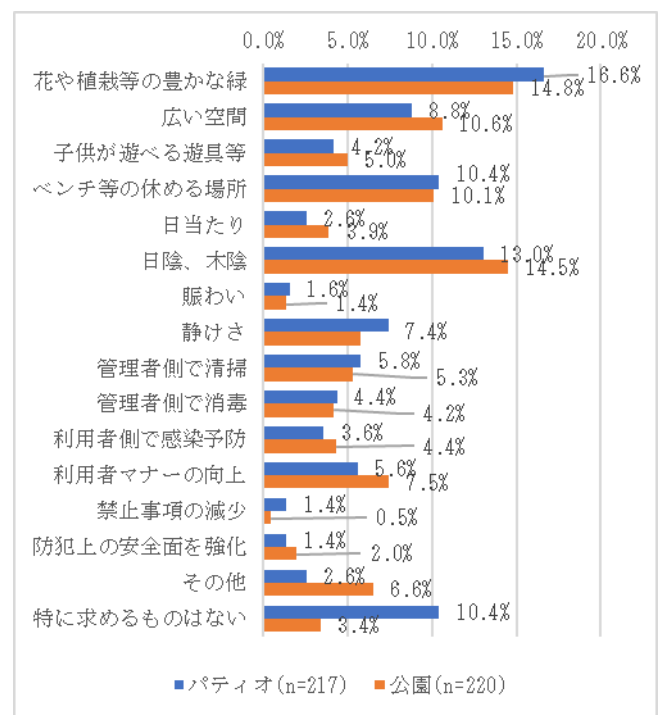


Figure2. What you currently request